



• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

JAPAN

Tamia

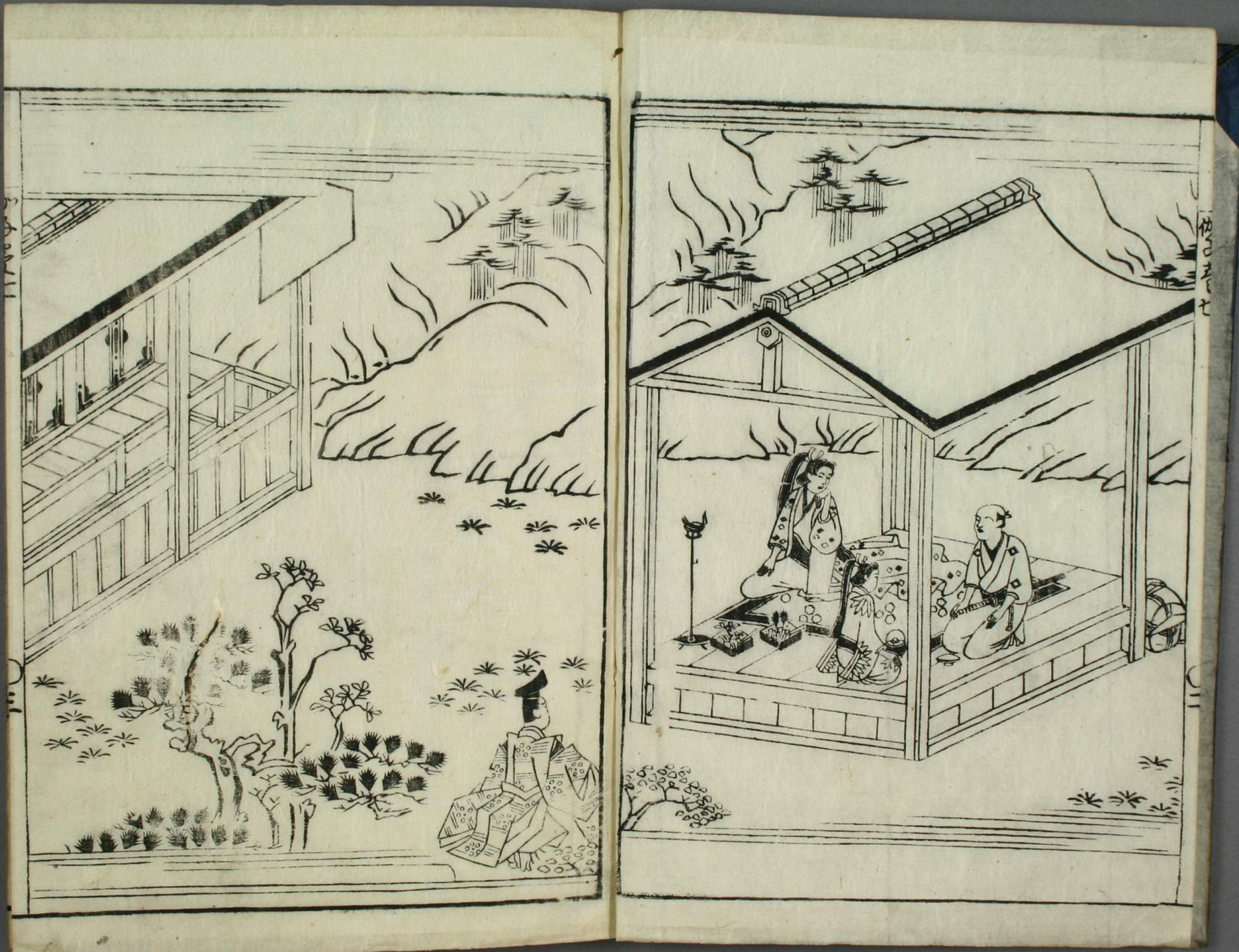
1639
4

加婢み卷之七

○猿馬之姫

西の室あらものえへ神物室の萬巻ありとてより其の
御作されば猿人ありとてひめうつてよる所あると
毛づれ猿人とも湯とよきくいります。おほくまし
かくと。このかよ神あよけをもつて法のうどゆく。つむぎ
る。れうけふ花もも本もももかふあ女のあよせとわふ
ど。ねくれ猿人。えぞのゆきとおきの萬人あよせよりよ
あく高音さうりのあり。九月のとあつてさあうとあくあ
ううう。秋の日あくひうとあくわく小様でさくらん
あとの里えせられべ。ごく人新とさわよさりとさわひあらぬ
よくわくわくのあらじふさくらん。商人わざくわ

かくてあらのえよ主つりをとがひんがめうて脇
とまく。まうね風のあとまくのあとに、あまく
は打のひもとたわみとあがくとまく。ありやく
らぐふとくやどろぐ。あくやくあびてまく。あく
ふきくまくとく。あくとまく。あくとくを
うべき。まくとく。あくとく。あくとく。
傳(伝)主のまくやくとく。あくとく。あくとく。
とやくひく。まくとく。あくとく。あくとく。
まくとく。まくとく。あくとく。あくとく。
あくとく。あくとく。あくとく。あくとく。
あくとく。あくとく。あくとく。あくとく。
あくとく。あくとく。あくとく。あくとく。
あくとく。あくとく。あくとく。あくとく。
あくとく。あくとく。あくとく。あくとく。
あくとく。あくとく。あくとく。あくとく。



ど主事の女房はうつむきてあくよゆうとわざめりて三味
さうけどのことわざ。おの重堂筆とよりもてひく女房が船
參りあるを柱としてあくべ廻らうてゆかうすみひき
くらふ。ある人へまへぬじらうてねがとうすもある。そのも
せようち波花とよすとておまく廻りうわりわ
まか祭り筆作のあくべうせぢれどもせよひまく仕合
まちく墨のあちとよびらる。もんちふ碌ぐくとよびとさ
ぐく小舟に舟形のあくべとて女房みすゞやと脚踏
の乗れん。とよびとておのあくべもとさりてあがりそれ
じめの筆かことじのくわくわくみつけり。主事の女房
えむとねじやうむくとく
あくべよねのあくべ。と書きひうを

りきあゆひきぬくと

もそきをたぬひけの筆の筆ともりとめの筆がわくよあつ
けくらべ。被もくぬまがき。たれも櫛もくれあるよけりされ
じも人やどろきてきあくべとゆがし。まくげくわくたうりく
のうりあくべる神おの法とくふげきのまくひのとく
つとくわ房などとひま。おのあゆの筆ふくとじまくらぶ。お
はくわく筆よあがくとく。書作まきの筆れうだよ被
きうじあくべの筆よあがくとく。筆ふくとじまくらぶ。
筆ふくとくの筆よあがくとく。筆ふくとじまくらぶ
ちじくわく筆の筆よあがくとく。筆ふくとじまくらぶ

おはの代をとてやましまりてたとす。源が獨り保たれど又
のもねよがうりぬ。其處へまのじら。書とくにありき
たる事と雲ふ。其處とゆりて。かくて是の事なり
と云はせと称づくもわざ。天性西生西死と云
ひます。とめとめうきひり。そゆりくくなへちふて
姓とえびが教へくし。がりきれど。うのんすくつらべ
とつう。うきひり。いもすひり。えへあくの多よや
き人あくえ。あくふり。わきあく。付さきうの十全をと
む。うちちかりうか。あるうか。でゆか。とせんへぐれり
つゆきうか。とよひうか。とく。首とく。手とく。身とく。の内よね丈
す。源あつてえへぐれり。すく。かく。うり。その内丈

とて又くいふ事あると云ふ事無く取てきりの
事多からぬ様形ふしにしき事と云ふ事
支多かが、べらわれまつたる事なればよき事
多き事、か見て也廢の事ノトキにあらじけりと
據えあ内よい事多く、ひそびりあらきの事
されど、わざとさむがよき事多く、ひそびり
あくまでゆふの事と被れ也廢と云ふ事
あぐりぬびたりとゆふ事多く、余乃舊と
の泥よき事、あらゆる事多く、ひそびりと
の事多く、あらゆる事多く、ひそびりと
事多く、あらゆる事多く、ひそびりとあれ事

卷之七

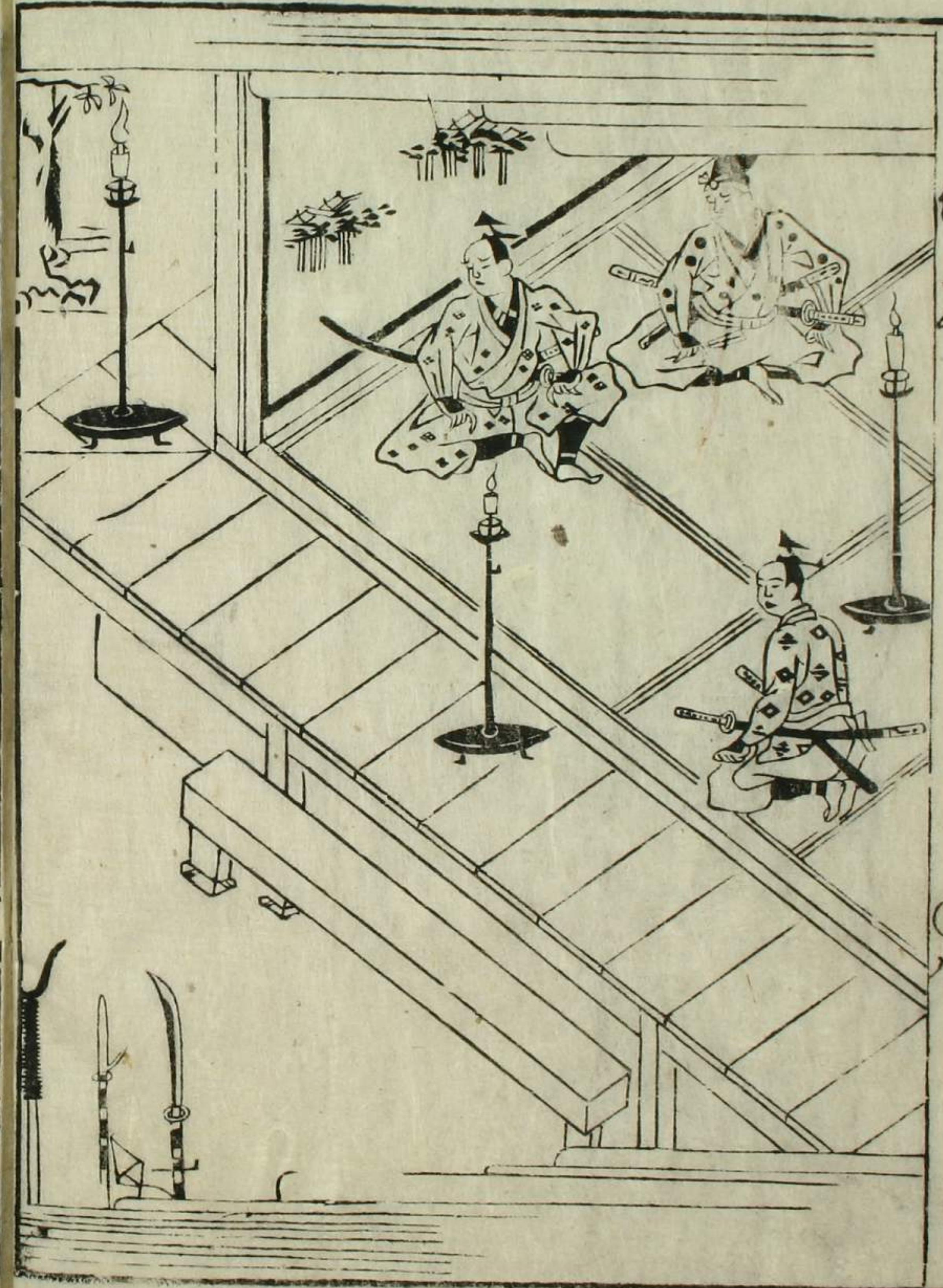
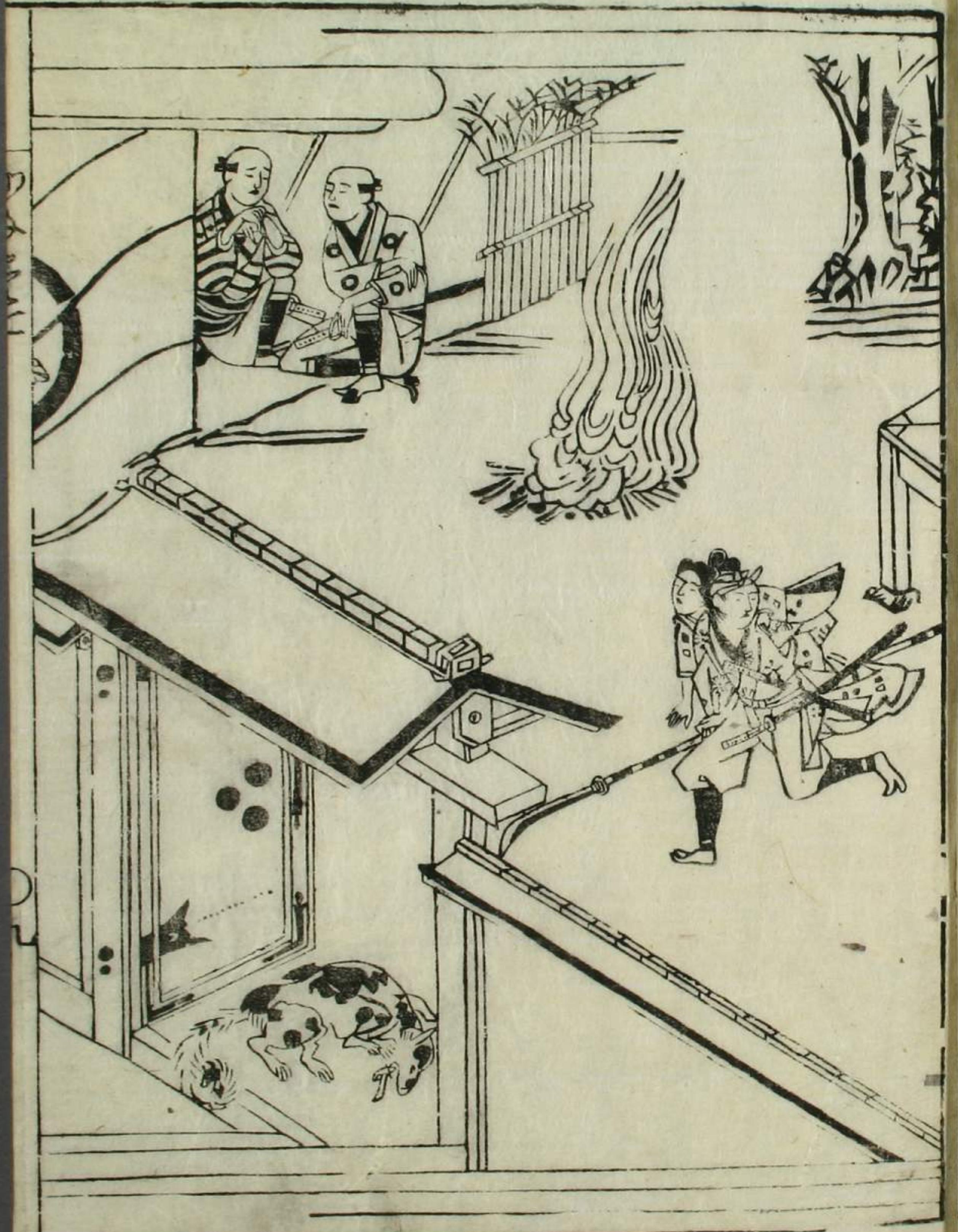
二六

やふきへり不敵のそをとくわよまびえておどるの
もとこれゑんるるり化府よりうわとすあはれの故ゆけ
て食とうがひまつむことかわとあはんがよくなが樂園が
あがしよくゆゑむとむとくらべぐみめくまくわとくらぶ
とぞかはとくらべくらべとくらべとくらべとくらべ
おとくらべとくらべとくらべとくらべとくらべ

○ 魔羅

あらじの金ち尾漁^{えん}也も自らの城^しもありてま威^{まこと}をもあ
やくあひきとすよま徳^{のいぢの}み祐^{めぐみ}はおもりあまの霧^{きり}の霧^{きり}の氣^き
あまりあうとあらかじめとえく人の目とやまとくとあうは
内^{うち}くらゆ幻^{げん}術^{じゆ}とくとくもゆふひくの牛と馬^ばにひき
あめ師^{あめし}されとくひくの豆^{まめ}をとせとくとく

よりひきとすの陽のくわくわくのあよめりてくらりのあ
らじくとすと手とのくわくわくにしハ牛のせまうあめりゆり
とよがくらよ御^ご所^しもくとすの場^ばかくえ島^{しま}とくふうと
やせんとくまくびくら扇^{おうぎ}をくわくわくとくまくわくとくまく
まくわくわく。ほんとくわくわくとくわくわくとくわく
くわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわく
かのえがくニスグ^{スグ}りとくわくわくとくわくわくとくわく
事^{こと}とゆきれどねのあまがりてくわくわくとくわくわく
たくら筋^{すじ}とくら筋^{すじ}のすくわくとくわくわくとくわく
うきひはくよりてくわくわくとくわくわくとくわくわく
とくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわく
とくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわく
とくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわくわくとくわく



中正之德

卷之十

蒙古文

トモハタマレハツノリムキ

とある事あつたからしゆくをかうむるにあつては
その事のやうな事あるをかうむるにあつては
とある事のやうな事あるをかうむるにあつては

まあまーその事あるをかうむる

つらこのさんりごのくわいじ

とくら御ごくらへりうがくめうづく。おのれにまつ
よめにまつてうつるよ福となり日と月のとあるとの
まづ。とくら御てびくよめうつるよ月のとあるとの
あまうぬ

○死ふ昇

やまとのかみよ。掲田原とよすのあたり年々人より父母を
きひつ。とありててだひりすくうりゆへぐは田をと
くの一人のよわつ年六たるより氣はとく。傳へまへと
ひとすりうれがまへくのうりあるとく。傳へ年あるふね
うぐくとて。まかばのきみくの薫るおりぬよ女のと
男一人か二人をまつせのとくめりぬとて。とてとてとあら候と
うへてばよと莫よくらむ。うへてげるのとくあら
ものとくとくとくのびの筆のとく所れもとくのとく
財のとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
のとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
の事よかれた。ゆかれてとてじしとくとくとくとく



後より娘の乳母へ序へてあらう。うりは
ゆきつゝて、いわく、おのづちにれぬと序へば、もと爲め
のまゝゆる。うそりとおもひあつて、がくかく、うつむきのまゝ
うそりとおもひあつて、おもひあつてのまゝとやうすく、
いわく、おのづちのむねりとくありて

次第にその間の事実を記す。

てあともうひがつよのままであつた。けふうろ定もま
よめだ。ちとすまづらあらわのふりで行なふる。今て対を
よみよぶ。ほんのやうに。うへがおよび物語してのまことつり
くじらうとすまづらはぬふくらむ。まくとくにわ
とよよしとまの西へとあり。うきとくにわとくにわとくにわ
つうけりとくにわとくにわとくにわとくにわとくにわとくにわ
とくにわとくにわとくにわとくにわとくにわとくにわとくにわ
ありかかくやあらえよとくにわとくにわとくにわとくにわとくにわ
てさへとくにわとくにわとくにわとくにわとくにわとくにわとくにわ

うすくらひのまへをかう

あへひきのくまくとらう墓ふとひきものひよくもて

○芳名九處

天をもとよりゆく行路の國包里をひそかに井の浦すぞりも
駆アリ浦奥附へゆきの裡うえあむ行路のあらわす
やうひるあよ松原。うたはれ浦河うきよゑにてのゆめ
身勇を纏ううきのうりけとづけよとくらうとどじくりあ
うふ西の國をぬその西國アモ浦河アモ浦河アモ浦河
身もとくわいの傳説の名を詠う國を

まのいわゆるい板橋と渋川と二本とあると佐野市
の今とつゆふ作場のまき屋もあらむとあらうが
まうらじか事とくつろ。ちかくと様とうれ威ともひうるの
うちけ雲よづけめうり。そつのあるまの良子の源の原意
ゆりくありあらすとがまく浦とうち民百姓とまつてまつて團
教村と捨てうべ伝とまやくびたうどあやうびたうと
よぬひ清めれどうひよ清くあくとすまきとくしやくわく
ふゆ中つじてぐねぬわく換じけりけふね極め月と今がく
うれりとわよすりとめうじとへらとつあよはまくまく
まはとぞりうとてく伝せみのあはるを若九を馬とあわれて高
駄よりもたまてね種時川よ乃食うりを若とひくと
高くもとてくひだらの者とあらうとあらう

も歎かと云ふよ身もあらばよ身もあらば
が、あるち事の仕事あるかの事はよりあらわつたるかもよ
此の事わく御よあひうち應くの御ゆきとせられ
かの事よれまうりてす御門がうやからぬ事よれまうりてす御
のね金よあらじてあらぬの事よれまうりてす御
ちあらじてあらぬの事よれまうりてす御

あ
る
よ
う
に
あ
れ
ば

候窟看至初良弓
弦通妙絕猶梵風

人をもてせどの事はなきや。まのうそその事達
ひのあようすをうつすよ。徳とくはりれ御色乃あ
うやくまくらふ極種。うち御ひゆまじまいあめのな
づくすやひそよの行運の二揆。げ。徳とくがうき
とくの内りやまのひととみよ。うが日精をふ。
わゆのとき。天をかたむけ。ひよ。おのれのち。左右
うふひづよ。ひ。おのれのとくとくあり。うづ
よきのあそびよ。萬事。まことあれども。うか歌
うか

西門之鄭子高

うるまのあらぬの月である

卷之三

とまく二ふきよめとあひておもひをもつて居る所ものと
あゆみのまへにかかへておもひをもつてゐるは
金剛輪珠と云ふりてすらもあらうが爲めにと
毛のあたはぬ真珠と云ふりてすらもあらうと
いふ二ふきよめと云ふりてすらもあらうと
あきれど今あきれど今あきれど今あきれど
町うちわくわくわくわくわくわくわくわく
波うきり葉舌ちよせうきり葉舌ちよせうきり
らいあいじゆうのふくわくわくわくわく
とうとひあひ實わく少種とおもひておもひ

とくにひきりてけんちゆうの事
おのそまくゆりえひとくにゆうと
アのまくとくとくのふと
むり

名向ひ



わうおうりふまうくわうくわうくわうくわうく
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
よゆよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
おおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおお
おおおおおおおおお
おおおおおおおお
おおおおおおお
おおおおおお
おおおおお
おおおお
おおお
おお
お

てとくらむよその事へと雖、たゞ高麗の軍事あり
きよりとすよりしるを敵の船とてに船体ありと
りうち飛ゆれども、の事とあみあふふ
地をくぐりて、今已かあひゆふ
ああをの面ふ様すらひつて、さもひまざるふ
あやうのあらゆべやんま、かまくわゆまくさ
きのじにはゆゑまよあ、さもさくはくとさきを
ときてはぐくり葉のどくわまうりあやめ
きのどくえ、ばあけよあくよめりあやめ
秋ひらきあのかへたるどとくはくと
のまゆの面ふもと行ふが、かくの鶴のと。

とあくまよゆきさんとちかの書房のうち事へる
とまともにわざ眼のひら重さんのもひまくはりて法で
立まくひ力生すもどもなまも私物のけしら體をうけ
うとすもゆうて道をふるまゆうりてまう徳ふ
まうじてよ室をスナ荷びり返ありてみうひぬよハれをも
いあくまきあくまふの駆けもくもくのきとつくるとくもく
くらまきの夜あたへ物のよとむとくまはりてあけとくも
をもぐかぬあたはりれじ思をばくとれあらうりとくもぐれ
あはれのまきとくまはりてあはれのまきとくまはり
えくまめのまきとくまはりてまはりてまはり
あまめのまきとくまはりてまはりてまはり

俳婢子巻之八

○長頸圖

越あらの圓小の底よ高人うりあひのあよあつと船舟に賄
みめりく木席麻布とうりて座布千地よくてゆよろひも
事とあくひあら車をかよびてねあよるふ車よ風うう波
たく獨どと梶うさげとほよまわう波、けでひくの鷺
よやれりん人危すとつとあそびりなれどあ町ぐくとあ
てん里うりま前の人へ參くく候ちやつてとひ日がたと
ざふをとわづかよ立へくせ乃ちとぞじき續接垂幕こう
國まことば。もち一里づりのあよ出廓ありとゞやねあも
しよやうとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと

さうりの一同うちあつまひ奥のまふらひありと達
の森せよとわざもとくらうのいはくをすすめよ
くわうえんとくわうに暮れみてまじくうきくわう
お種くまさんを徑うへてらぐに沈馬全赤とくわう
うり。かまひたむとく。圓玉もく材也と。大日圓鏡
うそとひ下さきをあくまくのえびとくまのあら葉
まくまくもくらひよ。うそとひて一枝よかとくらう
まくまくもくらひ。うそとひてやうかれた筋うそ
うそとひてやうかれた筋うそとひてやうかれた筋
まくまくはよ緑の葉うそとひてやうかれた筋
まくまくはよ緑の葉うそとひてやうかれた筋
まくまくはよ緑の葉うそとひてやうかれた筋
まくまくはよ緑の葉うそとひてやうかれた筋

鬼語を産む事有る。深山の菊里のやうな所にて
あそぶ葡萄珠巣の名ゆゑ。本草書葡萄と並んで
かくすわらず。またけ。そのあらへいふるの外
わざれども、内門のうちが、あらりぬじて、重ひき
き商ひます。もと、御園めつて、あよひれ
しとめあり。ほどくちかくわよどり。記傳の趣と
いびき。やうん。景理いそ。あまうり。あふ
あらび。もと、かうき。あらかじて、うふてね。まきと
あけぼりよ。ひ月を。ふらとひりよ。まく
てあく。うるさき。白の。じ。これを。被の。あたは
かり。と。付。うそと。薄れの。せり。おもて。ひいどよ
く。うふ。あよひ。まも。うつまく。よ。おおき。うち。余。うづ



うそで、おまかせだ。
妹がもううつむいていた。

國主をもてばよのくに
あらわすとてかくまへせよ
もよつねくとくの身の身
ひのとくの身中うそりてゆきゆ
くをそくとくじゆうじゆうじゆ
あらわすとくの身中うそりてゆきゆ
くをそくとくじゆうじゆうじゆ

邵子易數

やうふ城よち風ふさゆうりゆとあらわらうだまきやひ
寄とくはもれの延えまく西てざれこやうち、せば
えくえくとまよえむれの延えまくか延えくち
ひほうそくわざりわづわくとをじらへぬゆとあひふ
よねも書つて通すよゆとてくわみがれいわき
ゆくよりえくわくきしもくとくわくどくらして麻縄の作
の仕事ひぐりせんり作あよひざくづく盤あせんせんとく
せと通して作よいのうやえの仕よはせしとばうあげて
う向と然とまんとくいわ船のねうりゆくみ細りうぶくま
それ船はよあやうりわざのとくわきや林ぐくへ船は
うととくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
よめりまのれはまよ御の四津ゆけみのテ

とくとくおもひをそなへるよほの休むとまづかう物あん
やうりと迎えびやうへとまづんとひきのへくわざには
よもぎりすの村のさへとあり官(かみ)より御(ご)
老翁(ろううん)ともよつもくもくとけりや。そればまことの御社乃
神(かみ)さりとても大勝(だいぜい)蛇(へび)のさへよ御(ご)社(しゃ)を社(しゃ)裡(り)
里(さと)がふくらむる樹(じゆ)の種(たね)とすくわとい。あがひさりてよぐ
の太(おお)蛇(へび)と御(ご)社(しゃ)をゆりとぞ御(ご)社(しゃ)を
た。御(ご)社(しゃ)のときをふか。それどひ事(こと)じまくとせとあと
一(ひと)房(ぼう)や小(こ)ひぬわくとまづひとて人の休(やす)むとひくわ
とある太(おお)蛇(へび)のとくにあはだとくとあへ
あくびく。あるのとくわがとくとくとくとくとくと
ゆふるてうどお太(おお)蛇(へび)せようくわくわく
ゆふるてうどお太(おお)蛇(へび)せようくわくわく



わまく地の長サヌハムリテ
地ノシテモトモハムリテ
ヒトサクアタマニモハムリテ
ヒトサクアタマニモハムリテ
トモトモハムリテ
トモトモハムリテ

○おと妹と野原

おもむかずか浦とある一象床橋の下よりおおたてと年を一
えりきりぬくとあくまくあれありまことのれをとすりみ習ひ
わえまきがまえとだらうとえやつのあむ里や窓のあよふ島男
もはやとくわゆるよとくのひまわくとくまめとくまめ
傳送よりの御祖母のゆきわへ風船のゆきあわくとくあぐ
一枝あじの木門とあてとくよとあめとくよとひととくま
あとわざすとあくまくのゆきあとくよじとくよとくよとくよ

りうつり物事とあらへ年十九で貞観の間
た花しおじたるよしもあつてもうか
のなよとけ精のむかはまうと月あら
のゆわふあきよまくともおとことくに
ひあくとく氣事とあらかわすれ百里ゆ
ゑをねみるのうらすとくにぎりてふるもじと
のぞきえどすらまのう樹の氣おもて獨の氣とあら
しきこぐあらきゆううううううう
きくわくとまやうあけひくわくわくねひ
けうづけとくわくわくわくわく

مکانیزم این اتفاق را می‌توان با در نظر گرفتن این دو عوامل توضیح داد.

蒙古文

蒙古文

物もあつたが、さういふ

あらわすやうに思ひます

まことにあつてはあらうとおもふべき事でござり
まことにあらうとおもふべき事でござり
まことにあらうとおもふべき事でござり
まことにあらうとおもふべき事でござり
まことにあらうとおもふべき事でござり

たの氣をうつす
意のあらひをうつす
うちふれやまと
うちのゆゑにあつたる
もとまづくのうへ
めぐらすてすくゆく
めぐらすてすくゆく
めぐらすてすくゆく

蒙古文

蒙古文

まことにあらゆるのからだりわくよ

やまの山をくぐらし故郷と云ふ
とあるあめの秋のゆへとすとく
すまきよしゆのやうふせり
せよわいしのうべくとくとくやまと
あわせむかねゆきひづけ

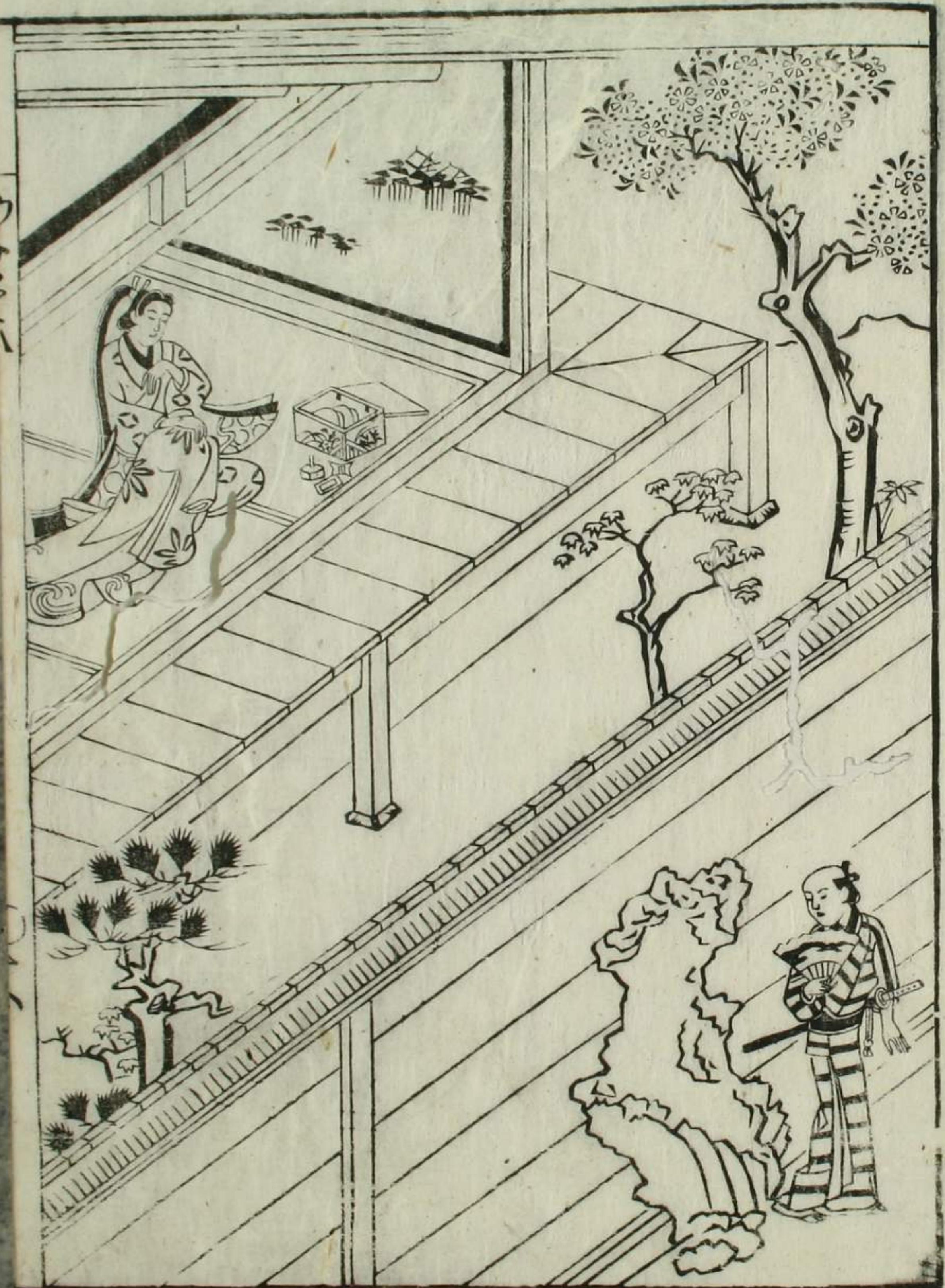
まくわくひんぐみかくじゆく
さやうすめんとうくも
さかはいりくわく
神のあつと
みのるのくわくと
みやめうけうけのくわく
らきよくわくと
おもむくわくと
さうゆくわくと

うのまくらのまくら

卷之三

之子也。故其子曰大有。

お氣の様の事はござりや
うよもんの事にござりや
あつた事アリと申ゆる事
やがてかふあつまく言ふ事
とある事と申ゆる事
其の事と申ゆる事
其の事と申ゆる事



いみじわらうとくとあまう
きみひうとくとくみう
きみびなうとくとく
きみむれくとくとく
きみゆくとくとく

やくとゆきのひをひ今ふあまふ室をよしりす
ゆうひゆみのああ種とあもとあはれのえれゆ
あふみふかわく城をうじ城をか、武士がよあすりれ妨捕りの船
舊りあそひをせうが生麻原もひくとがもと捕りのけをまのゆ
くちあくじとくとくいふんを教みたようぐる
ら。うづみとむ田舎人のうぢにひきよ
くちあくじとくとくいふんを教みたようぐる
てのきとくれまのひをもくとあひとくりとく
あれど魚のやくとくにあがめよりくにとく
がとくとくにとくにとくにとくにとくにとく
人ねみづぬをとくとくにとくにとくにとく

やくさくもとわきうへまわりまたのくわく
わくわいじよとみのくわくあはしわくとくに
のくわくまわらとくわくあはしわくとくに
あはしわくあはしわくあはしわくあはしわく
あはしわくあはしわくあはしわくあはしわく
あはしわくあはしわくあはしわくあはしわく
あはしわくあはしわくあはしわくあはしわく

ゆきひよるかくわんけり
うきふらむまわせだ

۱۹
شیخ احمد بن علی
شیخ احمد بن علی

○坐臺脚之傳亦坐之



ハ倉ちまのあひとてはの活むれどくわくらう
くよふとくにあらうかとくわくらうかとくわくらう
きよふとくにあらうかとくわくらうかとくわくらう
何のこゝかとくにあらうかとくわくらうかとくわくらう
人のあととくにあらうかとくわくらうかとくわくらう
ぬよまのとくにあらうかとくわくらうかとくわくらう
らのとくにあらうかとくわくらうかとくわくらう
あこげぬよまのとくにあらうかとくわくらうかとくわくらう
こわと傳ふたるをかうり傳ふたるをかうり傳ふたるをかうり
一ねこなぐとくにあらうかとくわくらうかとくわくらう
うえぬきとくにあらうかとくわくらうかとくわくらう
うへたるをかうりとくにあらうかとくわくらうかとくわくらう

ゆくはりとれどじ在りうばれのやあよりく、
ゆくあくわはせとあらうとくわくらうとくわくらうとくわくらう
所一人れりよわりとくわくらうとくわくらうとくわくらう
右裡のぞけくわらうとくわくらうとくわくらうとくわくらう
ゆくとれどじとくわくらうとくわくらうとくわくらうとくわくらう
まくとくわの様りのまたしわれとくわくらうとくわくらうとくわくらう
わくとあるひとくわくらうとくわくらうとくわくらうとくわくらう
とくわくらうとくわくらうとくわくらうとくわくらうとくわくらう
とくわくらうとくわくらうとくわくらうとくわくらうとくわくらう
とくわくらうとくわくらうとくわくらうとくわくらうとくわくらう
とくわくらうとくわくらうとくわくらうとくわくらうとくわくらう

ひすらうまかくやうじてりうぐてもがう
あらのよふはれとれてまきりをもつて
うそとすひけりとめり

○扇風の風の衣疏吹

細門ちゑるまぬくへ涼の氣をひかへて
細度將まよ扇風
さのそくうづくとく風とくゆくとあつ日大
ああ強くあふうづくとくぶゆきとくがふやくと
ゆのいらしげくわざわやく扇風よあくとある
衆人のきよみとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくと

